

<フィリピン事業> 「コロナ禍で新たな挑戦を決意した協同組合カリエ」



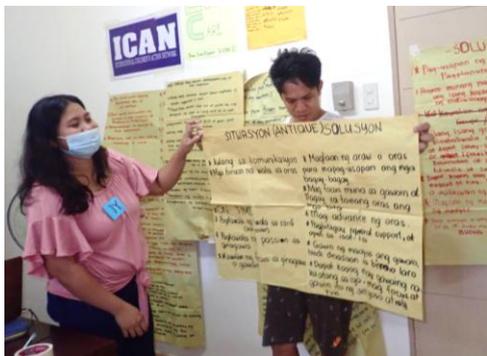
ICAN フィリピン事務所
Mariditha Mondares
～プロフィール～
2008年にアイキャンへ入職。パヤタスゴミ処分場における栄養・保健改善事業、路上の子どもたちの保護、災害緊急対応など幅広い事業に従事。看護師免許を持つ。

元路上の若者で構成される協同組合カリエが、オンラインを活用した商品販売という新たな挑戦を始めました。カリエとは、タガログ語で「路上」という意味で、路上で生活する若者が安定的な収入の確保を通して路上生活から脱却することを目指しています。協同組合カリエは、2016年よりケソン市にある国立フィリピン大学内で、パンやパスタ、飲み物を提供する「カリエカフェ」を運営し、その後、固定費削減のために「勉強カフェ」としてリニューアルオープンをしました。しかし、コロナ禍により店舗を構えたカフェ運営が困難となったため、話し合いの結果、オンラインを活用して自分たちの商品をフィリピン及び日本で販売していくことを決断しました。

5月17日、カリエのメンバーとオンライン販売に向けた話し合いを持ちました。フィリピンでは、コロナ禍により多くの店舗が閉店を余儀なくされ、オンライン販売が急増しています。そこで、まずはオンライン販売におけるカリエの強みと弱みについて意見を出し合い、「パン作りには自信がある。カリエは2010年のパン作りの活動から始まったため、僕たちのアイデンティティでもある。」や、「私たちは絆が強く、お互いを支え合うことができるのが強み。でも、利益の上げ方等のビジネスに関わる部分は弱みだ。」といった声が聞かれました。

カリエの若者たちは、幼少期に路上で生活していた頃から、仲間とご飯を分け合う等、互いに支え合いながら、苦難をともに生活してきました。今でも、問題を抱えているメンバーがいれば、他のメンバーが親身に相談にのる姿が見られます。そのため、彼らにとって協同組合カリエは単に収入を得る場ではなく、「居場所」であり「希望の砦」でもあります。また、カリエのメンバーの1人は、「僕は以前大人から、『路上の子どもが夢を持っても無駄だ。ずっと路上で生活していくだけ。』と言われたことがあります。でも、それは違う。カリエの運営で失敗したこともあるけど、メンバーの絆と想いは変わっていない。みんな、カリエの経営を黒字化させ、路上の青少年の希望になりたいと思っている。」と語ってくれました。

今後は、アイキャンの「子どもの家」の施設内で、カリエのメンバーのパン製作技術を活かし、パンに加えて焼き菓子や、フィリピンのお土産として人気のあるバナナチップスやドライマンゴー等の商品製作をしていく予定です。また、自分たちの弱みとして認識しているマーケティングやコスト計算等の研修も実施していきます。オンラインを活用した商品販売は固定費を抑えることはできますが、決して簡単に成功できるものではありません。私もカリエのメンバーとともに、フィリピンの企業や児童養護施設、NGO等を訪問してカリエの商品を知ってもらい、カリエの黒字化を達成したいと思います。カリエの希望が現実になるように、皆さまの応援もいただけると嬉しいです。



ジブチ事業

5月23日/ホルホル(ジブチ)

「子ども議会」に15名が参加



ホルホル難民キャンプにおいて、「子どものコミュニティ参加」というテーマで子ども議会が実施され、15名の子どもが参加しました。2グループに分かれて意見を出し合い、自身が暮らすコミュニティについて理解を深めることができました。「子どもの権利とコミュニティにおける私たち子どもの役割について学ぶことができました。」等の声が聞かれました。

フィリピン事業

5月31日/サンマテオ(フィリピン)

「子どもの家」に新たに5名が入所

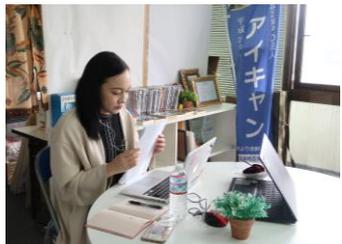


5月31日、アイキャンが運営する児童養護施設「子どもの家」では、政府運営の児童養護施設より、新たに5名の子どもが入所しました。「子どもの家」で暮らすアマー君(仮名、男の子、16歳)は、「自分の家族が増えたように感じて嬉しいです。新しい子どもたちの模範になりたいと思います。」と嬉しそうに話してくれました。

能力強化事業(国際理解教育)

5月27日/名古屋(日本)

インターン生によるオンライン講演



5月27日、インターン生が、南山大学のゼミ生20名に対して、「フェアトレードと国際協力」というテーマで講演を行いました。インターン生に関心を持つ学生もおり、アイキャンの活動等に関して多くの質問をいただきました。参加者からは「フェアトレードに関心があったので、アイキャンの取り組みが知れてよかった。」等の感想をいただきました。

ボランティア・寄付活動推進事業

5月/名古屋(日本)

オンラインショップの開設準備中



カリエがオンライン販売に挑戦する中、日本事務局においても、フェアトレード商品をより身近に購入していただけるよう、オンラインショップ開設の準備をしています。オンラインショップは「Kaya ko!」という名前で、タガログ語で「I CAN(アイキャン)」という意味です。8月の開設に向けて、オンラインショップで使用する写真の撮影を実施しました。